

令和6年度 第3回泉南市岡田浦駅周辺地区バリアフリー基本構想策定協議会 議事要旨

日 時 令和6年12月25日（水） 午後2時00分から午後4時00分

場 所 泉南市西信達公民館 多目的ホール

出席者 20名、アドバイザー3名

佐久間会長、金谷副会長、金永副会長、中尾委員、中谷委員、西口委員、山下委員、中根委員、森土委員、道場委員、上山委員、西谷委員、讃井委員、名手委員、徳田委員（代理）、眞田委員、加渡委員、伊藤委員、川端委員、大濱委員、上浦氏（代理）、加賀田氏、秀坂氏

欠席者 0名

事務局 都市政策課：市川、長濱、赤井

次 第 1 開会

2 議 題

（1）泉南市岡田浦駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）について（審議）

（2）その他

3 閉 会

配布資料 委員名簿（出席者名簿）

配席図

資料1：泉南市岡田浦駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）

資料2：今後のスケジュール

会議録（要旨）

1. 開会

2. 議題

（1）泉南市岡田浦駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）について（審議）

〈質疑応答〉

A 委員 31ページの生活関連経路Ⅰについて、「歩道の設置等道路空間の再配分」があいまいではないか。一方通行もあるため、もう少し含みを持たせた書き方にしてほしい。アンケートでも送迎の際に乗り降りのスペースが狭いとの意見もあることから、それに対する事業も必要ではないか。

事務局 31ページ下部の注釈にも書いているように、用地買収も必要になってくる可能性もあり、拡幅が本当に必要なのか、拡幅する場合でもどのように拡幅するのか、まだこれからの検討であるため、このような表現になっている。一昨年から大阪府とも調整しているが、注釈のように大阪府や市、地元が協力しながらといった表現にしてい

る。大阪府も多くの道路を管理していることから、整備優先順位を上げてほしいという考えもあることから、経路としても位置付けておきたい。

B 委員 事務局からの回答の通り、全体としてバリアフリーが必要ということで位置付けている。どのようにバリアフリー化を図るのかはこれからの課題であり、拡幅する場合でも前後区間との兼ね合いもある。今後、整備のニーズや予算も含め検討していく。

A 委員 今回の意見の内容は議事録にも残しておき、事業を検討する際には念頭に置いてほしい。

C 委員 駅について、27ページの課題にも記載がないが、聴覚障害者に対し、電光掲示板など文字情報を掲示できるような設備がほしい。

D 委員 現在のホームには通過・停車の表示のみで、遅延情報等は改札付近で表示している。ホーム上の電光掲示板は、普通列車が停まるのみの駅では通過・停車の表示のみが現状である。設置のルールとしては明確なものはないが、整備の検討は進めたい。

E 委員 ホーム上の電光掲示板が必要だと思う。

事務局 南海電鉄とも調整し、位置付けを検討する。

F 委員 31ページ等に記載のある「側溝や側溝蓋、グレーチングの改善」について、注釈に「個人で設置した側溝又は占用許可を得て施工している側溝等については改善指導を行う」とあるが、無許可で設置している場合にもこのような対応になるのか。無許可に設置している場合、その場所だけ工事でなくなる可能性があることが心配である。ある程度強制力を持って取組んでいく必要があるのではないか。

G 委員 無許可で設置されている場合については、許可申請を出してもらうような指導をしながら、基本構想に位置付けている事業実施の際にはご協力いただくことを想定している。

副会長 「側溝や側溝蓋、グレーチングの改善」について、31ページの府道については特定事業に○がないが、32ページの市道については特定事業に○がある。また、注釈があったりなかったりしている。これらすべて特定事業にできないのか。

12ページにおいて、踏切で車いすの前輪が線路とのすき間にはまり、危険とされている。これに対し、以前の協議会でも踏切を横断せずに駅を利用できれば問題ないのではないかという意見を出したが、27ページの課題に記載もなく、事業の位置付けもない。このことについて見解を教えてほしい。

事務局 事業の設定は事業者と調整した結果になっている。市道については、中期であるが実施可能であるということで特定事業に位置付けた。府道は小学校跡地利用との一体的な整備を想定しており、二重投資を防ぐため一旦は特定事業としてはいない。

踏切については、踏切を渡らないルートの設定について、和歌山方面側に改札をつくることや、改札内でエレベーターを整備し、円滑に移動できるように整備することが考えられ、和歌山方面ホームの車いす利用への対応ということで位置付けている。また、踏切内においても視覚障害者への対応として、エスコートゾーンを設置するなどの事業も想定される。

D 委員 踏切内の溝は、列車が安全に運行するために絶対に必要なものである。踏切内へのエスコートゾーンの設置は、整備済みの踏切もあり、道路管理者から要望があれば協議可能である。

踏切を通らないルートについては、「和歌山方面ホームの車いすへの対応」の手段の一つとして、和歌山方面ホームに改札とスロープを新設することは可能であると考えている。ただし、改札口の位置は小学校跡地活用を含むまちづくりとの連携も必要であるため、今後、市とも調整しながら検討したい。なお、改札をつくることが事業ではなく、改札内にエレベーターを設置するなど、対応方法はこれからの検討であることに留意してほしい。

会長 特定事業に位置付けるか位置付けないかの二択しかない。道路と駅とを一体的に考えていく事業について、駅については特定事業に位置付け、道路は一体的に考えていくのであれば事業内容が不確定であるため位置付けないこととしている。跡地利用と一体的に考えていくのであれば、注釈を入れて、検討に合わせて特定事業としていくということとどうか。事務局で調整してほしい。

H 氏 特定事業の位置付けについて、小学校の跡地利用もあることから、現時点では、管理者の意向に沿った位置付けでもよいと考える。今後、跡地利用の検討の進捗に合わせて計画を見直すことを前提とすることでも良いのではないか。

会長 38ページの今後の取組みについて、小学校の跡地利用の進捗にあわせて、計画を適宜見直していくこと追記してほしい。

副会長 心のバリアフリーが非常に大事だと思っている。37ページのバリアフリー教育事業に「障害者等を招いた講習会の開催」を位置付けているが、それだけでなく、市全体で色々な場所で機運を盛り上げるような取組みを市でも検討してほしい。

会長 色々な団体と協力もできるので、記載できる取組みを検討してほしい。

- I 氏 バリアフリー教育事業について、33ページにもソフト事業の記載が2つある。これは教育事業に盛り込んでもいいのではないか。南海電鉄でも従業員の教育をやっているということであれば、それを位置付けてもいいのではないか。
- 2点目として、35ページの建築物について、義務教育学校をバリアフリー化することを盛り込んでもいいのではないか。
- 3点目として、39ページの情報のバリアフリーについて、大阪府でもバリアフリーストレマップを公表している。バリアフリーストレマップの作成も検討してはどうか。
- 会長 再掲でもいいので、ソフト事業の充実を図ってほしい。
- 2点目について、義務教育学校についても記載を検討してほしい。
- 3点目について、大阪府の取組みの掲載やその他のソフト事業の取組みを検討してほしい。
- C 委員 37ページのバリアフリー教育事業について、障害者のことを知っていただくために教育は重要であると思う。小学校から福祉協議会に依頼で実施しているピアカウンセリングでは、派遣されるピアカウンセラーが地元の人ではないので、実際に地元に住んでいる方を呼んでいただいて、一緒に交流してもらいながら、課題を解決していくことが大事ではないかと思う。
- 会長 表現可能かどうかも含めて検討してほしい。
- J 委員 視覚障害者なので、道が狭かったり、歩道の起伏があつたりすると歩けない。
- 南海電鉄について、ホームドアが付いている駅があれば教えてほしい。
- D 委員 なんば駅の高野線の1番線乗車側ホーム、同じく高野線の中百舌鳥駅の4番線に設置しており、3番線が工事中である。本線も含め今後検討していく予定である。
- 副会長 駅周辺を良くしようと思うのであれば、小学校跡地と一体的にまちづくりを考えていく必要があると思う。
- 会長 市全体で考えても、世代が交代していく中でこういった施策を打てるのかは非常に重要であると思う。

(2) その他
〈質疑応答〉

会長 パブリックコメントの実施期間はいつからいつまでか。

事務局 令和 7 年 1 月 14 日（火曜日）から 2 月 13 日（木曜日）の一か月間を予定している。

会長 知り合いや周りに方にもお声掛けいただき、意見を出してほしい。

3. 閉会

以上